

豪商の館「機那サフラン酒本舗」の 保全の為の地域活性化活動

特定非営利活動法人 醸造の町撰田屋町おこしの会 [新潟県長岡市]

団体設立の経緯

平成になって、地域の歴史的建造物や地場産業を活かしたまちづくりについて幾度か議論が重ねられましたが、具体的進展が見られないまま時間が経過してしまいました。

そんな中、2004年に着任したJR長岡駅長が撰田屋の魅力に着目し、組織的な活動を提言し、これに呼応し地域が動き出そうとした時、未曾有の災害をもたらした新潟県中越地震が発生したのです。地域の蔵造りの建物も大きなダメージを受け、このままでは永らく親しまれてきた景観が失われてしまうかもしれない危機的状況でした。

地震から数カ月が経ち再建の計画を練り始めた頃、地域の蔵元が集まって話し合い、古いものを残しながら再建しようということになりました。そして私達の考え方に賛同する地域や市内の有志が集結して、2005年にNPOを作って本格的な町づくりがスタートしました。

地域概要

戊辰戦争と太平洋戦争で市街地のほとんどが焼失した長岡市にあって、撰田屋は明治、大正の面影を残す貴重な地域といえます。

長岡市南部に位置するこの地域は、土地が安定していた上に交通の要衝でもあった為、古くから町が形成されていたとされています。江戸時代になるとこの地域は天領(上野寛永寺領地)に組み込まれ、自然の恩恵に加え緩い規制の下、産業が根付きました。酒・味噌・醤油など醸造の蔵元が集まり、長岡藩領とは異なる独自の発展を遂げたのです。

そして、地域のほぼ中央を、旧三国街道が当時の道幅に近い形で残っています。戊辰戦争(北越戦争)での長岡藩本陣、光福寺もここにあります。明治になると機那サフラン酒本舗が薬酒の製造を始め大躍進を遂げると共に、その財力を惜しみなく使って蔵や屋敷を建て、この町に色を添えてゆきました。現在7件の有形登録文化財が在り、どこか懐かしさを感じさせる街並みです。

設立年月…2005年8月設立 2006年1月法人化

メンバー数…正会員30名

代表者名…中村隆(なかむら たかし)

連絡先…〒940-1105 新潟県長岡市撰田屋4丁目8番16号

☎0258-35-3000 settaya@yosinogawa.co.jp

団体のミッション…私達は、個性豊かで創造的な活力のある地域社会づくりに寄与することを目的とし、長岡市撰田屋地域を中心とした構成員相互の協力と資源の相互活用を通じて、町づくりや地域おこしの事業を行っています。

唐破風の玄関をはじめ、職人技の粋を集めて造られた本舗の迎賓館「離れ座敷」。昭和6年の上棟式の告知には、飛行機から大量のビラがまかれたそうです。



活動に至った理由や背景

かつて繁栄を謳歌した機那サフラン酒本舗も、戦後急速に衰退し今ではかろうじて製造を続けています。そしてその建物は老朽化と中越地震のダメージで見ても無残な状況になってしまいました。

しかし、これらを修復するとなると莫大な費用がかかる予想されます。この地域の宝をこのまま無くしてしまっても良いのだろうか？これを後世に残す為、修復への道筋を考えると、いくつかのハードルが存在します。その一つがこれだけの文化財でありながら、市民にもほとんど知られていないことです。これは本舗が衰退してからかなり時を経たこと、屋敷が永らく閉鎖され人々の目に触れることが無かったことに起因します。

私どもはこの事に着目し、自分達でできること、調査や公開、情報発信からスタートさせることにしました。そして地域のボランティアなど市民の手で活動を進めようと考えました。

活動を盛り上げるグッズの制作

活動を盛り上げるグッズとして今回Tシャツを80着製作し、ボランティアや会員に配布してイベント等で着用、一部はイベントで販売しました。今回は初めての試みでしたが、今後、撰田屋やサフラン酒のキャラクターグッズを積極的に開発してゆきたいと思います。



建造物調査

5月1日、長岡造形大学平山育男教授率いる調査チームが初めて本格的調査に入りました。6名の調査員は建物の一つ一つ調査し記録してゆきます。

屋根裏に入り埃にまみれながら探っていくのは見ているだけでも大変でしたが、棟札を見つけた時には歓声が聞こえました。この調査は2日間続けられ、多くの事実が判明しました。最後にカメラマンが離れ座敷をきれいに写真に納めようと、何時間もかけて部屋を片付けていました。

庭園修復

5月2日、3日の両日実施された庭園の灯籠積直し工事。クレーンが持ち込まれ、中越地震で倒れたままだった、大型灯籠4基を含む多くの石灯籠を9年ぶりに建てることができました。往時の頃に比べればまだまだですが、災害の傷跡が少し減り、痛々しさも多少薄らいだ感じです。



上から順に 建物を実測する調査員／本舗
建物の話題が飛び交う昼食風景／多くの石
灯籠が建て直されたが、まだ半数

地域の宝を世代を超えて取り戻す。

荒れた邸内の片付け作業

4月27日、最初の片付け作業は主屋と離れ。間近に迫った建築調査が行えるよう、少なくとも通路を確保しなければなりません。この日集まってくれたボランティアは30名。数十年放置された内部は極めて荒れており、物が散乱し足の踏み場もない状況でした。埃と格闘しながらごみをより分け袋に詰めてゆきます。

懐かしいものや、珍しいものがたくさんあることがわかりました。先の見えない作業でしたが、なんとか通路を確保してこの日は終了しました。

サフラン草取りボランティア「抜いたる隊夏」

6月1日、この日の参加者は53人。実はこのボランティアイベント「抜いたる隊」は2009年から始まりこの日で8回目、いつかはこの素晴らしい庭園を公開して、多くの人に見てもらいたいと始まりました。最初はジャングルのような庭も、今はかなり奥の方までゆけるようになりました。

このボランティア、作業はきついが終わった後は、おにぎりや撰田屋の味噌汁が待っています。飲み物も用意され、会員、地元住民、学生、地元企業の方々が乾杯して交流を深めます。この日は午後から地元向けではありましたが、公開も行われました。



公開に向けて

7月に1回、その後しばらく休んで、9月になると10月に開催する「おっここ摂田屋市」での庭園と離れ座敷一般公開に向け、片付け作業も頻繁に行われました。もちろん庭園の草取り「抜いたる隊」も。

各部屋には腰の高さほどいろんな物が散乱していました。これをとっておくものと廃棄するものにより分けます。永く整理したこと無かった部屋の中には興味深いものも多く、思わず手を止めて見入ることも。あとで整理したら、楽しい展示ができるかもしれません。破れた障子紙を取り除いて埃をきれいに払い、新たに障子を貼ってゆきます。細工が細かく手間のかかる作業で、何より数が半端でない。掃除が進むにつれ立派なお座敷が少しずつ蘇ってきます。そのせいもあり、作業に夢中になり終了時間も忘れるほどでした。

9月21日、この年2度目の草取りボランティア「抜いたる隊」が実施され、参加者が過去最高の60名に達しました。この日は草取りボランティアに並行して、離れの清掃も行われました。庭園草取り作業が完了し、正門が20年ぶりに開かれました。離れの清掃はこの後も公開直前まで続けられました。

保存を願う

市民の会を立ち上げ

6月23日、活動のネットワークを拡大し、より具体的に組織的な保存活動を目指す「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」がスタートしました。長岡の中心施設「アオーレ長岡」で開催された設立の会には、NPO会員の他にも市内外から30名が集まりました。

会長には長岡造形大学の豊口協理事長、副会長には前の副市長二澤和夫氏を選出され、機那サフラン酒本舗を市民の財産として保存・活用を目指すことが宣言されました。

建築調査報告会

「保存を願う市民の会」に引き続いて、5月に実施した調査結果をまとめた報告会を行いました。長岡造形大学平山教授によって、本舗の建築年代や構造、建築に携わった人達など、調査によって判明



した事実とそれを基にした考察が発表されました。

最後に教授はこう述べました。「摂田屋には、国の登録有形文化財と候補がずいぶん増えた。これらが生業である醸造を中心とした産業に基づいた建物であることがすごく良い。醸造業がこの地に建築文化を育てたことは非常に意味があると思う。蔵があり、連続的な手入れが必要な為、大職人が地域で育ちこれだけのものが生まれた。吉沢家は大きな資金力で、いろんな建物を造ったが、地域に作れる力があつたから造れたのだろうと思う」

このサフランの建物をどうしていったら良いだろう。基本は「まちづくり」とか「まち巡り」の拠点として使って行く必要があると思います。多くの人に見ていただく価値を十分持っています。どういふふうにするかを考えた上で、残せるところは修理して公開、必要な部分は新たに整備しなければいけません。

吉沢仁太郎のメッセージを受け取るならば、最初に建てた主屋の部分は壊してはいけない。鰻絵蔵があつて主屋があつて古い時から在った部分は、機那サフラン酒本舗の全体で何とも言えない雰囲気をよく示しているところです。市民の大切な財産です、未来にこの建物を伝え、うまく使えるような形で残していくべきです。

草取り後の庭と

姿を現した

離れ座敷

まだまだかもしれない。しかしなんとかボランティアで公開までこぎつけました。

庭では雑草を取り除き、離れでは掃除を終えて良く見ると素敵な意匠がいたるところに見ることができました。今ではとても手に入れることができない、そして造ることができないものです。

本舗の魅力はいろいろ。ご高齢の方のお話ですが、子供の頃学校の遠足でここを訪れ皆が鉛筆をもらったそうです。

庭園、離れ座敷

一般開放

10月5日、撰田屋最大のイベント「おっこ撰田屋市」に併せ、機那サフラン酒本舗を開放。離れ座敷に上がった人だけでも1,000人を超えたと思われます。正門(南門)が20年ぶりに開かれ、この日行われた米百俵祭りの武者行列も屋敷内を行進しました。

開放には町内会と長岡造形大の学生がスタッフとして参加し、庭園は長岡造形大学渡邊誠介教授、離れ座敷は平山育男教授に解説をいただきました。

見学した人たちの多くは感動の言葉を発し、長岡にこんな場所が残っていたことに驚きを感じていたようです。

来場者を対象にしたアンケートの結果は、庭園を初めて見た人は75%、離れ座敷は90%でした。また本舗の将来について、「絶対残すべきだ」と回答した人は75%。「できれば残すべきだ」の回答を加えると実に97%の方が保存を望んでいます。

歴史講演会

11月3日、河井継之助記念館館長の稲川明雄先生による講演会「吉澤仁太郎と撰田屋」を撰田屋の光福寺で開催しました。入場者は約100名。歴史講演の前に長岡造形大学、平山育男教授による2回目の「機那サフラン酒本舗建築調査報告」も行われました。

稲川先生の講演では、本舗の創業者がなぜこの撰田屋の地で創業したのか。どうやって事業を拡大していったのか。どんな人物だったのかを資料を示しながら、講師の推理も含め語っていただき、創業者の人物像を紐解きながら本舗の魅力が語られました。

雨漏り

11月も終わろうとする頃、離れ座敷で雨漏りが発生。調査をすると離れ座敷の屋根が傷んでおり、数か所で雨漏りが発生していました。貴重な桐の天井が雨でしみだらけになっており、雪が積もってしまうと工事できなくなる為、緊急工事となりました。とりあえずの応急処置しかできませんでしたが、とりあえず雨漏りは止まりました。



建物内部も素晴らしいですが、外側もとても精緻な木組み。残念ながらいたる所に欠損が見られます。

今後の予定

昨年の離れ座敷と庭園の一般公開で実施したアンケートでは、予想以上の保存に対する要望を確認することができました。公開は今後も積極的に継続してゆきます。公開範囲も広げてゆきたいと考えています。そのために清掃活動は続ける必要があります。屋敷内には荒れたままの部屋がまだたくさん存在します。

活動には多くのボランティアが参加しています。公開に際しても地元住民や大学生や教授が活躍しました。今後更に多くの参加が戴けるよう、ネットワークの拡大を図ってゆきます。

保存への共感者を募るためにも、情報発信が重要です。現在ホームページを制作中です。本舗の魅力とタイムリーな情報を発信して、ファンを増やしてゆきます。

私たちの目標は保存だけでなく、市民が集える場所にする事です。活用方法についても検討を始めました。未だトイレも使えない状態ですが、今年は試験的にチャレンジしてゆく予定です。第一弾として7月に狂言のワークショップと琴や篠笛の演奏を聴きながらライトアップを実施します。

活動で新たな事実も判明しております。本舗の建材はとても貴重で、現在では入手できない物が多い。語り継がれている

伝説が事実に近い。創業者の商才が莫大な利益を生み出していた等々。調査を継続すれば、更に多くの新事実が期待できます。片付けで保管した資料は膨大です。保存を進める上にも、有益な情報があることが期待できます。

昨年保存の為の市民の会を立ち上げました。今後はこの会を中心として活動を展開します。募金活動も軌道に乗りつつあり、助成金と募金で最低限の補修をさせて戴くことになりました。今私たちに出来ることは応急処置だけで、修復は未だ先になりそうですが、市民の力を結集し活動を加速させ、できるだけ早く保存修復につなげたいと思います。